

ボッチャくにたちカップ2025

レクリエーションルールについて

1. 1試合2エンド。同点の場合、タイブレーク。
(代表者による1投。得点は数えず勝者のみを決定する)
2. タイブレークの際は、じゃんけんをして勝った方が先攻(赤)・後攻(青)を決める。
投球の結果、ジャックボールに最も近いボールを投げたチームを勝者とする
3. 1エンド3名で一人2投。(合計6投)
4. コートは特設コート。(バドミントンコート約半面)
5. 一人用のスローリングボックスはなし。じゃんけんで勝った方が左右どちらかのボックスを選択。
 - ※ コートに向かって立った時、左のボックスは赤ボール、右のボックスは青ボール。
 - ※ 左のボックス（赤ボール）を選択⇒第1エンドジャックボール
 - ※ 右のボックス（青ボール）を選択⇒第2エンドは同じボックスでジャックボール
 - ※ エンドが変わっても各チームはボックスを移動しない。
 - ※ 投球しないプレーヤーはコートの外（スローリングボックスの後方）に出ても構わない。静かに待機し、他のチームの迷惑にならないようにする。
6. グループリーグの勝敗（優先順位）
勝数 > 得失点差（該当チーム） > 総得点
※上記の決定順で勝敗が決まらない場合はタイブレークを実施する。
7. ペナルティスローはなし。投球の際に、ラインを踏んだり越えたりしないように、審判が促す。
8. エンド間のメンバー変更は可能。
9. 作戦タイムは1エンドにつき、各チーム1回30秒まで可とする。
審判に作戦タイムの申告を行ったチームは、作戦タイム中はチーム全員でコート内に入り、ボールの配置を確かめることができる。
- 10.介助者がランプを操作する場合は、公平を期すため、介助者はコートに背を向けて、投球者の指示によりランプ操作することを基本とする。
ただし、投球者に意思決定支援が必要な場合や、自身で投球を行うことが難しい場合は、介助者2名の補助を受け、以下の①の方法で投球することができる。介助者が1名のみの場合は、以下の②の方法で投球することができる。
 - ① 介助者がコート外でランプ操作する場合
 - ② 介助者がコート内にいる場合

- ①ランプ操作を行う介助者はコートに背を向けて、投球者の意思決定支援を行う
別の介助者の指示によりランプを操作する。
- ②ランプ操作を行う介助者が投球者の意思決定支援を行い、コート内を確認して
投球する。

※本ルールは「ボッチャくにたちカップ 2025」独自のレクリエーションルールです。

「令和7年度東京都市町村ボッチャ大会」のルールとは異なる取扱いとなります。

※その他についてはボッチャの基本ルールを適用。

★大会の円滑な進行のため、時間制限等を設ける可能性があります。

(詳しくは当日説明します)